

三井物産環境基金 2011 年度 東日本大震災 復興助成（第 3 回募集）活動助成 社外案件選定委員による総評

三井物産社は、従来の助成方針を大きく変え、未曾有の被害をもたらした東日本大震災からの復興をテーマに掲げ、緊急ということで 5 月、6 月、7 月の 3 回に分けて助成案件を募集しました。この総評は、その第 3 回締め切りの 7 月末分の活動助成に関するものですが、全 3 回の総括の意味もあります。

震災から 5 ヶ月経過したものの、国や県単位の活動がなかなか進展しない中、現場をかかえる基礎自治体（市町村）等とタイアップして何とかしようとする活動が大量に申請されてきました。第 3 回は、活動助成申請だけでも 160 件（応募資格対象外 3 件含む）と第 1 回、第 2 回に比べ大幅増であり、研究助成と合わせると 369 件に達しました。当初予算を第 2 回までで消化している中で、柔軟に対処するという三井物産経営陣の判断でこの大量の申請に対処することになりました。

今回は、あまりにも大量なので前 2 回とは少し審査のやり方を変え、1 次審査により半数程度に絞ったものに、2 次の案件選定委員により、全件について案件概要のチェックで気になったものを追加して、詳細審査を行なうこととしました。

まず、第 3 回の活動助成に関して全般的な感想から述べさせてもらいます。外部から落下傘部隊的に支援活動をするというものも数多く、又、依然としてアイデアのみと推察されるものも多かったのですが、地元で様々なセクターと協働するという地に足の着いた活動も増えてきたのは喜ばしい限りです。緊急の対応に関する活動、復興に向けての中長期の活動、伝統文化財保護の活動、などなどバラエティに富んでいました。

当然の事ながら緊急のものとしては放射能汚染の除染活動に関するものも数多くありましたが、これは本当に判断するのに困難を伴いました。あまりに大きな問題を限られた狭い場所で巨額の助成金で対処することには否定的にならざるを得ませんが、国等の対応が早急に動きだすことを願うばかりです。

結果として活動助成としては 8 件を選定しました。今回の活動助成は持続可能性関連が主で、表土森林と生態系で計数件を選定しました。それぞれは必ずしも大きなプロジェクトとは限りませんが、地に足の着いたものであり、十分に所期の目的を達成してもらいたいと念じています。

全 3 回を通してバランス良く、良い活動を選定し助成できたのではないかと自負しています。勿論、意見が分かれ、止むなく見送りとした案件の中にも数多くのすばらしい活動があり、支援できなかったのは残念です。選定の輪に関らせてもらったものとして、喜びとともに責任の重みを痛感している次第です。

過去に当基金が助成して活動中の類似案件等とは、連携、情報交換が重要と考え、それを実行するよう注文も付けさせて頂くことを決めました。今回の 3 回分だけでなく、活動助成だけでなく、研究助成も含めこれまでの助成案件での知見、経験も参考にしてもらうことが活動成果を大きくすることに必ず役立つと確信しています。

活動にとって「連携」、「パートナーシップ」というキーワードは命です。当基金の他の助成団体等との連携を推進し、シナジー効果を発揮して頂くことを強く願っています。

最後に、本基金が果たしている大きな役割等については言を尽くせませんが、研究助成の総評で述べられていますので重複は避けさせていただきます。

以 上